

令和5年度 第1回学校運営協議会抄録

日時: 令和5年6月13日(火)18:00～ **場所:** 本校 会議室

出席者: 阿部(玉野市内自治会長)、入口(市教委学校教育指導主事)、大岩(株式会社ドゥワソール)、熊谷(岡山大学教授)、白髭(玉野備南高校長)、角田(後援会会長)、藤原(商工観光課参事)、藤原(保護者代表)、東(玉野 SDGs みらいづくりセンター)、三澤(日比中学校長)、事務局: 教頭、事務長、教務課長、進路課長、生徒課長、普通科長

1. 開会(玉野備南高校長)

「変わり続けることが変わらないことである」との言葉があるように、玉野備南高校の不易と流行を考えながら学校運営を行ってきた。校長としての任期は今年度限り。校長が代わっても、玉野市に貢献する人材の育成ができるように、これからの時代に求められる本校の魅力やあるべき方向性を研究しておきたい。

本日は、本校への期待を伺いたい。



(熊谷委員は研究室からリモート出席)

2. 委嘱状交付 委任状の確認、3. 自己紹介

4. 会長・副会長の選出(選出後の進行は角田会長による)

委員の互選により、会長に角田委員が、副会長には保護者代表の藤原委員が選出された。

5. 学校説明(一部を抜粋) ～令和5年度の基本方針について～

・学校経営目標・ランドデザイン・三つの方針・組織編成について説明。

今年度の重点目標は、「通う生徒にとって学びやすく魅力的な玉野備南高校を考える」である。これは次年度以降に3・4修制の在り方を踏まえながら考えるもので、生徒や保護者、学校運営協議会の意見を参考にしながら、一定程度の方向性を研究論文にまとめることを指す。

この目標の背景になっているのが学校ランドデザインであるが、「人間力の育成」を土台に「基礎学力」「コミュニケーション力」「自己管理能力」を育み、「持続的な就労と安定した生活を営む力を育てること」を、本校が目指していることを説明した。

・教育課程は、新学習指導要領に沿った授業展開であることを説明。

「1年生の書道」、「キャリア探索」、「自立活動」、「キャリア基礎」など、注目の教育活動や通常授業は、常勤教員をはじめ非常勤講師の熱心な指導により、順調に行われていることを報告。

・学校経営の具体的計画について、各担当からの説明。

教務課からは、整った教室で学べるようにすることや、学び直しの充実を図るための情報交換会を設けることやタブレット端末の授業での活用事例を研修することの説明や普通科会議を年間8回程度開催し情報共有することで、きめ細やかな指導につながったとの報告があった。

生徒課からは、社会生活に必要な規範意識と思いやりの醸成を、交通ルールの遵守と遅刻欠課の連絡を通じて促すことや、部活・生徒会活動で心の育成を図ることの説明があった。

進路課からは、インターンシップを2年生から早期に、複数回実施していることや就職内定者と企業との連絡会を実施したことで、円滑な就労につながったことの報告がなされた。また持続可能な就労を目指す観点から関係機関との連携も充実させていることの報告があった。

特別支援コーディネーター・教育相談室からは、関係機関と連携しながら通級指導を充実させていることや1・2年生全員がSCとの面談を実施していることの説明があった。

6. 意見聴取と協議(一部を抜粋)

(1)今年度の方針について →5の学校経営目標や組織編成、教育課程等は承認された。

【委員 A】玉野市の中学校教員を経験した者にとって備南高校はなくてはならない存在である。

【委員 B】通級に関する指導スキルは高いと思う。全員の先生にもその意識が浸透している。

【委員 C】特性のある生徒にタブレット端末を使って、必要なルールやマナーを指導していることが理解できた。これからも社会に出て必要な力を子どもに付けてほしい。

【委員 D】関係機関と連携することで人間力を育成し、早期離職を防ごうとしていることが理解できた。インターンシップ等で配慮してほしいことは事前にリクエストしてほしい。

【委員 E】インターンシップの回数や期間が増えていることから先生方の熱い思いがうかがえた。当社も最大限協力したい。

【委員 F】説明される先生方が元気で、指導に自信を持っていると感じた。部活動で仲間と汗を流す卒業生の姿を見て成長が感じられた。安心して学べる環境であることが解った。

【委員 G】備南の先生方は生徒の卒業後のことまでを考えている。これからもお願いしたい。

【委員 H】コミュニティースクールは「学校がしっかり伝えて、地域が共有・承認すること」が大切。今年はこちらが変わるとか、今年度の重点目標はこれだという伝え方をしていると良い。

(2)3・4修制について →学び直しには時間が必要な一方で、志願者の減少が予想される。

【委員 H】4修制をベースにして3年でも卒業できるとなれば、備南高校を志願する人が減少すると思う。3年で卒業したいというニーズにもしっかり応えられるようにしてほしい。

【委員 D】人生百年時代、長い目で見れば社会に必要な力をじっくり付けることは必要ではないかと考える。玉野備南高校が目指す学びを志願者にしっかりとPRしてはどうか。

【委員 G】4年間の備南高生を経験したが、働きながら学んでいると決して長いとは言えない。

【委員 I】高卒後は社会と直結しているので先送りできない。失われた時間を取り戻すにはそれなりの時間が必要。3年卒は定通併修制度で補完できるようにしたいと考えている。

←(事務局)小中学校で不登校だった生徒が3年間で卒業するのは、実績の上からも容易ではない。専門医の助言から「(個性に応じて)時間も必要」との助言を受けている。

7. 事務連絡 学校運営協議会の今後の開催予定(11月、2月)や臥龍祭への出席依頼ほか。

8. 閉会(角田会長)今後とも皆さんの力で玉野備南高校を支えていきましょう。